

# 2023 年度第 2 回 一般社団法人日本箱庭療法学会研修会のお知らせ

主催：一般社団法人日本箱庭療法学会

日 時： 2024 年 2 月 11 日（日・祝）12：00～17：30（受付 11：30～）

会 場： AP 品川（東京都港区港南 1-6-31 品川東急ビル 8F）/Zoom

## ご挨拶

日頃、さまざまな心理臨床の現場に携わっておられる皆さまには、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。2023 年度第 2 回の全国研修会を AP 品川で開催いたします。今回も、前回に引き続き、オンサイト参加とオンライン参加のハイブリッドで開催させていただきます。

全体会では、当学会の編集委員でもある東洋英和女学院大学の前川美行先生にご登壇いただきます。前川先生はさまざまな臨床現場で心理療法の実践を積んでおられます。そして箱庭や夢、描画などイメージを重視しながら、そこに「偶発事」というものがどのように関わっているのかということについても、深い思索をされ、『心理療法における偶発事—破壊性と力』（創元社 2010）では、因果的思考では説明できない「偶発事」が心理療法にどのように関わっているのかということを経験的に述べておられます。

今回の全体会では、どのような関係性がクライアントさんとの間で出来たときにイメージ表現が可能になってくるのかということ、イメージを扱う臨床の初心者の方にも納得できるように紐解いてください。どのような導入が可能で、そこで表現されたものをどう理解していくことができるのか、そしてその時にクライアントだけでなく、セラピスト側で起こってくるのはどのようなことなのかなど、実際的な臨床に即して詳しくお話いただけることと思います。

後半では、震災対策分科会を含め、6つの分科会を設けております。事例を募集している分科会もございますので、どうぞ奮ってご応募ください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

2023 年 12 月 吉日

一般社団法人日本箱庭療法学会 研修委員長 岩宮恵子

## <開催要領>

1. 定 員：オンサイト参加者 120 名  
オンライン参加者 無制限

会場に来場いただく「オンサイト」参加と、Zoom を使用して視聴いただく「オンライン」参加を選択可能なハイブリッド形式での開催となります。

**参加資格：心理臨床の事例に関して守秘義務を負うる、以下の条件のいずれかを満たす方とします。**

- ①一般社団法人日本箱庭療法学会会員
- ②箱庭療法を導入・または導入を検討中の児童相談所・児童養護施設等の心理職に従事されている方
- ③臨床心理学およびその関連領域で心理臨床の実践的な仕事に従事されている方
- ④心理臨床を専攻する大学院生

2. 参 加 費：学会員：4,000 円 非会員：7,000 円 大学院生（非会員）：5,000 円

3. 研修ポイント：全体会、分科会の両方に参加した方には、日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士教育・研修規程別項」第 2 条 (3)「本協会が認める関連学会での諸活動への参加」の通り、受講者には 2 ポイント、分科会での事例発表者には 4 ポイントが付与されます。

## 4. 研修内容

### (1) 全体会：12：00～14：00

テーマ：「イメージによる心理療法の可能性 —夢・箱庭・描画—」

講師：前川 美行（東洋英和女学院大学）

心理療法において箱庭療法を勧めるとき、また描画に誘うとき、どのような基準で始めるのかと尋ねられることがあります。SVの先生や先輩、そして仲間から、イメージが展開するケースを聴いていると、それは謎ではなく自然な流れと思えるようなのですが、接することの少ない人にとっては、論文を読んでもケース発表を聴いても謎は深まるようです。どのようなタイミングで、なぜイメージを勧めるのか、ほとんどが心理療法の場とクライアントさんとの関係がそうさせる、といえます。一方で、近頃、ネットにも頻出している「箱庭療法」の理解の中には、安易な適応があり、これはやはり避けるべきことです。訓練を受けずに使われ始める危険性は、やがてイメージによる心理療法を衰退させてしまう危険さもあるでしょう。イメージの持つ力、可能性はそれほど大きなものです。最近では、展開が望めないと思われていたケースにも箱庭など直接的な表現媒体がところにも働きかけることが事例から示されてきています。

そこで、イメージの持つ可能性を自験例から探りたいと思います。一般的な理解を越えた突出した表現は多くのことを明確化し、あるときには可視化し、直接的に教えてくれます。セラピストの不思議な夢もお話したいと思います。そこから、夢・箱庭・描画などのイメージの持つ可能性を探りたいと思います。

### (2) 分科会：14：30～17：30

以下の6グループに分かれ、分科会を行います。

**事例呈示を募集している分科会は、概要の最後に<事例募集>の表記のある分科会です。事例呈示希望者は、「6. 参加・発表申込について」をご参照の上、お申し込みください。**

#### ● 第1分科会 岩宮 恵子（島根大学）

『虐待体験の傷を考える —イメージ表現や好きなものの語りによって支えられるもの—』

さまざまな理由から、まったく守られない状況で生きてきた子どもたちのなかには、その過酷さを問題行動や、プレイセラピーのなかでの激しい表出などで再現する子も多い。その一方で、そのような表現をとらない子も存在する。そのような子どもたちの内面では何が起きているのだろうか。今回は生育歴のなかでの深い傷つきを、直接的ではないイメージ表現や好きなものの語りのなかで示した子どもの事例から、心理療法でその傷に関わることのできる可能性とその限界についても考えてみたい。

（事例提供者：平嶋 優氏）

#### ● 第2分科会 河合 俊雄（京都こころ研究所）

『大人の発達障害への夢によるアプローチ』

近年、大人の発達障害およびそれに近い人が心理療法の現場で増えている。発達障害についてはイマジネーションの問題が指摘されているので、夢での関わりはむずかしいように思われるが、意外に夢によるアプローチが有効なことがある。発達障害の人の夢の特徴、その展開について概説し、事例を検討したい。

（事例提供者：藤巻 るり氏）

#### ● 第3分科会 川崎 克哲（学習院大学）

『夢の視点から「見立て」を考える』

心理療法の実践において「見立て」は非常に重要である。そこには、患者の訴えの背後にあるものがどのような力動をもって成り立っているのか、心理療法の中で患者がどのような仕事をしていくのか、そのプロセスの中で治療者が気をつけておかねばならないことはどのようなことなのか、などなどが含まれている。かように心理療法において要になる「見立て」に関して、患者から報告された夢が重要な示唆を与えることは非常に多い。かなりの長期間の面接を経過して考えてきた「見立て」がひとつの夢から得られた視点によって刷新し、新たな角度から治療に取り組むことを可能にし、そのプロセスが展開しはじめることも稀ではない。

今回のワークショップでは、面接の中で報告された夢を詳細に検討することで、その事例をどのように「見立て」していくかを考察していきたい。

（事例提供者：大録 慈氏）

● 第4分科会 田中 康裕（京都大学大学院教育学研究科）

『夢の臨床的活用 ―セラピーのなかで夢をどのように扱うのか―』

「夢分析」という枠組みではなくても、心理面接の場でクライアントが夢を報告することはしばしばある。ユングは「夢はそれ自体の解釈である」と述べたが、夢には何らかのメッセージや意味が込められており、セラピストがそこにアプローチしようとする、あるいは、それに曝されることには大きな治療的な意味があると言えるだろう。この分科会では、鹿野友章氏（上智大学総合人間科学部特任助教）に、夢の報告があった成人女性の事例を発表してもらい、セラピーのなかで夢をどのように扱うのか、どのように理解するのかについて、具体的に検討したい。

（事例提供者：鹿野 友章氏）

● 第5分科会 前川 美行（東洋英和女学院大学）

『イメージの転換点について』

心理療法の経過で、イメージが大きく転換するときがあります。例えば、箱庭表現において、これまでと違うミニチュアが置かれ表現内容が変わったり、ひとまとまりの形やきれいに並べられたりなど、構造の変化が起こったりするときなどが挙げられます。また、描画において色や形が変化したり、夢で夢見手の行動が変化する等です。表現の変化は心理的変容とどのように関わっているのでしょうか。イメージの転換と心理的変容との関係について考えてみたいと思います。

<事例募集> ※箱庭、描画、夢などのイメージが表現されているケースを募集します。

● 震災対策用分科会 岸 良範（茨城大学名誉教授・福島学院大学客員教授）

渡部 純夫（東北福祉大学）

『福島第一原子力発電所の「処理水」の福島沖合での海洋投棄という新しい事態のなかで、「安全と安心」を考える』

福島第一原子力発電所の「処理水」の福島沖合での海洋投棄という新しい事態のなかで、その安全性に対する新たな不安が生じている。「事実に対する不安」と、「政治的な煽りの中での不安」が絡み合う中で「科学」が問われている。

「処理水」の海洋投棄についての安全性については国連機関 IAEA の「包括報告書」等による「科学の後ろ盾」があり、「正しく恐れる」という風潮が国内にはある。この「正しく恐れる」は、科学的なエビデンスに基づいての行動を促すキャッチコピーでもある。

しかしながら科学的なエビデンスがそのまま受け入れられるわけではない。客観的実在を私たちの生活世界では主観的現実として受け止める。そして信頼なき「知」を受け入れるのは常に困難さが伴う。エビデンスがあれば対話の信頼関係が構築されるというわけでもないであろう。人々の間に「信頼関係」があってはじめてエビデンスが意味を持つ。その信頼関係を当事者同士がいかにか醸成していくかが大切なことになる。

今回の分科会では、(旧)東京電力技術開発研究所、(旧)東工大原子炉工学研究所、明治大学理工学部、北海道大学大学院工学研究院を研究の場として、一貫して原子力の危険性と安全性について、また原子力発電のシステムの安全性について研究してきた森治嗣先生をお迎えし、安全の本質がどのように考えられてきたかをお聴きし、さらに臨床心理学的な立場から渡部、岸との生活世界における「安全」について議論を重ねていければ、と考えている。

（報告者：森 治嗣先生）

5. 参加・発表申し込みについて

**WEBによる参加・事例発表申込方法**

**【参加申込】**

当会ホームページ (<http://www.sandplay.jp/training.html>) および右記 QR コードの申込フォームよりお申し込み下さい。申し込みが完了しましたら、自動返信メールが送信されます(※パソコン、スマートフォン対応)。自動返信メールが届かない場合は、日本箱庭療法学会 全国研修会事務局 ([training\\_jast@sandplay.jp](mailto:training_jast@sandplay.jp)) までお問い合わせください。



**【秘密保持に関する誓約書の提出について】**

参加申込完了後に誓約書フォームへの入力画面に移動しますので、内容をご確認いただき、必要事項にご記入ください。参加申込時に提出できなかった場合は、右記の QR コードよりフォームにアクセスしてご提出ください。

誓約書をご提出いただけない場合は、大会・研修会への参加をお断りすることになります。また、誓約内容に違反された場合、大会参加資格の停止、研修会参加資格の停止等の措置をとらせていただきますので、あらかじめご了承ください。



## 【事例発表申込】

上記の参加申込フォームよりお申し込みいただけます。事例発表を「希望する」にチェックし、申込フォーム上にある＜事例概要記入シート＞にご記入の上、別途メール添付で日本箱庭療法学会全国研修会事務局（training\_jast@sandplay.jp）までお送りください。参加申込締切後、事例発表の可否について、事務局よりご連絡いたします。

※＜事例概要記入シート＞は、当会ホームページからもダウンロードしていただけます。

※ **事例発表申込締切：2024年1月10日（水）【必着】**

※ **参加申込締切：2024年1月24日（水）【必着】**

- ・お申し込みは原則として先着順です。
- ・分科会コースの通知はおこなわず、お申し込みいただいた分科会で受けさせていただきます。
- ・定員となった分科会より締め切らせていただきます。希望者多数の場合にはご参加いただけない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

## 6. 参加費振込みについて

- ・自動返信メールを受領後に、以下の口座へ参加費をお振込みください。

### ＜郵便局・ゆうちょ銀行から振り込まれる場合＞

振込先： 00900-8-233788

加入者名： 一般社団法人日本箱庭療法学会研修委員会

### ＜他金融機関から振り込まれる場合＞

銀行名： ゆうちょ銀行

店番： 099

預金種目： 当座

店名： 〇九九店（ぜろきゅうきゅう店）

口座番号： 0233788

- ・お振込の際に、自動返信メール内に記載されている【受付番号】をお名前の前に必ずご記入のうえ、お手続きください。（例：8528 ハコワタロウ）
- ・振替用紙を使用される場合、通信欄には「2023年度第2回全国研修会参加費」と自動返信メール内に記載されている【受付番号】とお名前をご記入ください。（例：8528 ハコワタロウ）
- ・納入された参加費の返金はできませんので、あらかじめご了承ください。

※ **参加費振込締切：2024年1月26日（金）**

## 7. 参加証について

オンラインで参加された方には、当日受付にて参加証をお渡しいたします。参加証が研修会証明書の代わりになりますので、大切に保管してください。

オンラインで参加された方には、終了後に参加ログにて出席確認を行い、参加が認められた方のみ送付いたします。送付までにお時間を頂戴いたしますので、ご了承ください。なお、終了後1ヵ月を過ぎても届いていない場合は、training\_jast@sandplay.jp までお問い合わせください。

## 8. 会場案内

＜電車でお越しの場合＞

各線「品川駅」港南口より徒歩6分

＜お車でお越しの場合＞

近隣の有料駐車場をご利用ください。

詳しくは、AP品川のホームページをご参照ください。

<https://www.tc-forum.co.jp/ap-shinagawa/access/>

## 9. 研修会に関するお問合せ先

一般社団法人日本箱庭療法学会 全国研修会事務局

E-mail : training\_jast@sandplay.jp

